

## 分科会（３） 「都市景観」

平成14年10月19日（土）午後1時～3時  
さくら会館2階第3集会室

コーディネーター：村山 利夫氏 本多 豊國氏  
渡邊 一成氏  
市職員：都市計画担当課職員ほか



司会

本日は「いっしょに話そう、まちづくりフォーラム」にご参加いただきまして、大変ありがとうございます。こちらのテーマは都市景観でございますが、去年開催されたフォーラムを受けて市の方ではどのように行政に反映させているか、また、それを受けてどのような取り組みがあったのかというようなことについてご報告させていただきます。また、参加いただいております方々からも、いろいろとご意見を伺っていききたいと思います。

それでは、本日お越しのコーディネーターの先生方の紹介をさせていただきます。

向こう側から、村山利夫さんでございます。

続きまして、本多豊國さんでございます。

続きまして、渡邊一成さんでございます。

そして、私ども行政側から内部のプロジェクトチーム、政策課題検討チームという名称でございますけれども、都市景観の分野の担当課長でございます都市計画課長の荒井でございます。

それでは本題に入っていきたいと思いますが、まず最初に行政の主な取り組みにつきまして、都市計画課長の荒井の方から皆様に御報告をさせていただきます。

荒井

それでは私の方から、市で都市景観に対する、今までどのような取り組みをしてきたかということにつきまして、御報告させていただきます。

過年度になるわけでございますけれども、当時の行政推進担当というセクションがございまして、そこによりまして都市美形成の推進のために体制強化を図るということから、役所の職員に対する都市

美推進委員会というものを設置しまして、都市景観に対する全体構想の作成、また統一性、調和等の検討などを図ってきております。

それを受けてかどうかわかりませんが、総合基本計画の第二次の総合計画の策定中でございましたので、平成2年度の4月に第二次福生市総合計画が発足したわけでございますが、その中の第3章の都市像、いわゆる市の将来像におきまして、福生市のまちづくりの方向の第一が美しさであるというような提言もされております。

そういうことで、この委員会もかなり継続してきておりましたが、平成4年度にやはり役所内部の組織改正がございまして、行政推進担当という部署が廃止されまして、この都市美推進委員会が一時中断されてきております。ところが組織改正をしながら平成7年度におきまして、今度は都市美に関する事務事業につきまして、都市計画課の方で受けまして、そのときに今度は都市景観事業推進委員会と名称を変更いたしまして再開させていただきました。メンバーはやはり同じように役所内の係長を中心に構成してきております。目的といたしまして、当初の都市美推進委員会と同様に、趣旨を踏まえた形で現在まで検討してきているところでございます。

なお、今年度におきましては都市景観マスタープランを市で策定しようという考えがございまして、平成16年、17年度を一応予定してございますので、それに向けましてこの委員会のメンバーによりまして市内を5地区に分けました。ちょっと申し上げますと、福生、東福生と東町地区、それから本町、志茂、牛浜地区を一つに、それから熊川地区を一つに、加美平、武蔵野台を一つに、それから北田園、南田園を一つと5地区に分けまして、今現在、委員の方に年度内で現況調査を実施していただきたいというお願いをしているところでございます。

以上、組織的な委員会のことになるわけでございますが、御案内のとおり市といたしましては都市景観事業の一環としまして、昭和63年度から彫刻の設置事業を実施してまいりました。この彫刻の設置事業は、美しい町並みづくりによって魅力ある都市景観をつくり出す、また都市環境の潤いのあるまちにするという目的を進めてまいりました。毎年1基から3基程度設置してまいりましたが、財政上の問題がございまして、平成9年度で設置事業は一時中断しております。

この事業によって市内に設置された彫刻でございますが、全部で28基でございます。記念彫刻や寄

贈されたものを含めると、現在では市内に32基の彫刻がございます。

そういうことで、いろいろ財政上の問題がありまして9年度でそういう形でハード部分の事業の方は中断しましたが、平成10年度に、今お手元にお配りしました、今まで設置いたしました彫刻や福生十景などを中心に「福生景観彫刻マップ」を作成、いわゆる都市景観事業の推進委員会の手づくりといいますが、印刷は別途委託したものですけれども、手づくりによって作成いたしました。特に四つのハイキングコースなどは委員会の中でも小グループに分かれまして、そのコースを実践してきたところでございます。

このマップが大変好評で、2月に作成したのですが、9月ごろになったら、在庫を調べましたら100部しか残ってないと、4000部つくったんですね。大変好評で我々もううれしい悲鳴だったのですが、そんなことがございました。ですからかなり皆さんそれぞれこういう都市景観についての関心があるのかなというふうに我々も感じているところでございます。

今後はこういうようなフォーラムを通じながら、また先ほど申し上げました都市景観マスタープラン、さらには前進していくには都市景観条例というものを策定していかなければなりませんので、皆さんの御意見等を聞きながら策定に当たっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上がこれまでやられてきたようなご報告でございます。どうぞよろしく願いいたします。

司会

どうもありがとうございました。



それでは、フォーラムに入るわけでございますけれども、今回も村山さんにまた写真を撮ってきていただきました。どうでしょうか。最初に見ながら始めてよろしいでしょうか。

村山

先ほど御紹介がありましたように、本多さんは芸術的な分野で活躍の方でいらっしゃいますし、それから渡邊さんは都市計画のコンサルタントを主たる業務とされている方ですので、このフォーラムを進めていく上ではもうお二方で十分なのだと思う

のですけれども、景観というのは視覚的なところもありますし、視覚にあらわれる以前の問題もいろいろあるかと思っておりますので、このフォーラムをお受けするときに、私が最も得意とするということと、口はばつたいのですが、やはり写真が動く映像で今の福生の町並みというものを一緒に、共通に把握していただく必要があるのではないかなというふうに思っていて、それで写真を何十枚か撮ることを計画しました。

それでこのフォーラムというのは継続することがとても大事ではないかなというふうに思っておりますので、データを見ましたら、去年の10月6日と7日に2日間かけて撮影をしました。それで今回はもう付け焼き刃で、きのうまで私、岐阜県の白川村の方に出かけておりましたので、けさ少し早起きをいたしまして、この1年間で福生市内で視覚的にどんなふうに変化が生じたのかなということいろいろ伺いましたら、何箇所か具体的な変化があらわれておりますので、それらも含めて、去年の写真と同じものがかなりあるわけですが、それを皆さんと一緒にごらんいただきながら、それぞれのお立場で自由に御意見をおっしゃっていただければよろしいのではないかなというふうに思っております。

去年の最初のときは、私が、私どもの方であまりはっきりとした意見を申し上げてしまいますと、それだけでフォーラム全体を誘導するようなことになりかねませんので、なるべく意見を申し上げずに、写真そのものを皆さんにごらんいただいて、どんなふうに感じられるかということを中心にしたいというふうに思いました。

しかし、きょうは本格的な2回目ということになりますので、この写真を撮ったねらいみたいなものが実はありまして、そういうものを含めて皆さんにぜひ活発に御意見をいただきませんと、せっかく貴重なお時間をいただいているわけですので、どうぞ御遠慮なさらずにいつでも御意見をおっしゃっていただきたいと思っております。

それでは始めさせていただきます。

まちの景観というのは、きょうはタイトルは「都市景観」となっていますが、私は「都市」というよりは、もっと自然というものを積極的にこのまちの中に取り入れていこうという傾向があるような気がするのです。

なぜかと申しますと、1回目にお集まりいただいた20数名の方々にアンケートを取りました。御意見も伺いましたら、「一番好きな福生の場所はどこですか」との質問に、多摩川沿いの景観が大好きだとおっしゃる方が圧倒的に多かったのです。つまりビルの中の限界性みたいなものを求める方よりもやはり自然、水や緑とたわむれる、ああいう景観を好む方がとても多いのだと思います。そういう意味では疲れている方がいらっしゃるのかなとも思ったり、世代の違いなのかなとも思ったりして、いろいろ考えさせられることがあったわけです。

とりあえず「都市景観」というタイトルがついていきますから、ここで進めさせていただきますが、こ

れまでは役所任せだったまちづくりも、これからは皆さんそんなことを言うていられませんか、私たちのまちを住みやすくするのもしないのも一人ひとりの市民の皆さんのかかわり次第という新しい時代がきております。やはりまちが輝くということはそこに住んでいる人たちが輝かなければまちは輝かないのではないかと思います。

それから、市民と行政だけでまちづくりができるかといえば、必ずしもそうではなくて、警察や交通や学校や地域、コミュニティといったようなところが総合的に連携してきて、どの一つも外すことはできないと思います。

それから、具体的にはまちに掲げられている看板だとか、それから建物を設計するデザイナーのセンスだとか、それから建設会社の技量だとかといったようなものも景観に大いに影響してくるわけですが、そうするとどんなに一つひとつのデザインがよくても、まちの全体の雰囲気というものを醸成していくためには、そこに何か一つの共通の認識というか、そんなふうなものが必要だと思います。

こんなふうなお話をしながら、市民の皆さんが本当に参画した景観づくりのための実施組織というふうなものがないものだろうかという大きな課題があると思います。

先ほどはお名前だけの御紹介になりましたが、本多豊國さん、自己紹介をお願いいたします。

本多

私の仕事は絵描きでして、今、実は隣の中央図書館で絵本の仕事もやっていますので、原画展もやっていますので、ぜひついでがありましたら見てください。普段はこういうような、要するにいわゆる日本画なのですけれども、それをやっております。



今、ライフワークで、実は去年の3月ぐらいからアメリカにいまして、アメリカがちょうど50州ありますので、安藤広重の53次にヒントを得まして、50州全部書いてやろうと思ひまして、今4州終わりました。それで来月、ちょっと寒いのですけれども、シアトルとオハイオと2州、そのあとがミシシッピということでやっております。とにかく墨絵が中心でそれに色をつけるというふうな仕事をやらせていただいております。仕事はそういうことです。

それで、私がなぜここにいるのかなというのちょっと自分自身も不思議な気もするのですけれども、ちょうど福生というまちが、絵を書く人間から見ますと縦が2キロ、横が4キロという非常に書きやすい比率になっております。またコンパクトで、わりあい神秘的な見方の仕事なものですから、きょう村山さんが撮っていらしゃった写真などを見せていただきながら、いろいろどうも視覚的に色の問題があるか、形の問題であるとか、そういうところでいろいろ言いたいこともたくさんありますので、お許しを得てきょうは言わせていただこうかなと思っております。よろしくをお願いいたします。

村山

きょう御参加いただいている方々にちょっと簡単に自己紹介していただきたいなと、お住まいの場所とお名前と、福生のこんなところが好きというのをぜひ、まずこういう集まりをやるときはアイスブレイキングとかという英語の喩えで申しわけありませんが、ようはお互いまだ顔がよくなじんでなくて、何となくわだかまりがあったりするわけですが、そういうようなものを取っ払うという意味でぜひ自己紹介をしていただければありがたいと思います。

恐れ入りますが、最前列の方からお願いいたします。

Aさん

南田園の一丁目の桜並木の下にいますAです。

たまたまあそこに住むことになったのですけれども、先ほどの話があったように、福生の人が一番好きな場所ということで非常に幸せに思っています。これからもそういう周りをやはり大事にしていきたいというふうに思います。

Bさん

Bと申します。南田園三丁目に住んでおります。五日市街道を真っ直ぐ行ってぶつかったあたり、榎の木がありますが、そのすぐそばです。25年ほど住んでおります。南田園三丁目の町会の活動に携わってきました。いいところに住んでいると思っております。

小峰

市役所の方の都市計画を担当しております小峰と申します。よろしくをお願いいたします。

私はこの多摩川の河口から福生の大体、そうすね、体育館があるところが51キロ地点です。私はもうちょっと下流の41キロ地点の南の、日野の方から来ていまして、生まれも育ちもそこでございまして、日野の新撰組という、土方さんという方がいます。そのこの生まれの者でございまして。日野も緑が多くて、非常に自然がすばらしくあるのかなということ私意識しているのですが、福生もこれに負けぬように、また緑を大きくするように努力してまいりますので、よろしくをお願いいたします。

村山

小峰さんのようにきょうは役所の方も自由に御発言いただけます。去年はもう口にテープを張って、何か言われても、本当は言い返したい場面がたくさんあったのだらうと思いますが、きょうはそういう制限はありませんので、どうぞ自由に御発言になってください。

関塚

市役所の都市計画課からまいりました。きょう始めて来たのですけれども、私も福生の緑は好きでして、小さい頃からよく遊びに来ていました。住まいは青梅です。きょうはよろしく願いいたします。

村山

ありがとうございます。若い方でも緑がお好きだと聞いて安心しました。

山崎

私は市役所の教育委員会におります山崎と申します。

先ほど都市計画課長が申したように、プロジェクトの関係でメンバーをやっております。その関係できょうはこちらの分科会に参加させていただきました。

住んでいるところは、実は福生ではございませんで、日の出町という山の中でございます。ただ20数年間福生市に通いながら常々思うのは、多摩川から見た福生市というのは非常にきれいだなと思います。中から見てもきれいなのですけれども、あきる野市の方から見ると、河岸段丘が帯状になっています。そして一番下に川があって、土手沿いに緑があって、また市街地があって、また緑があってという、そういう縞模様がよくわかるのですね。それから私はバスの中でいつも思うのは、永田橋から見たところの、入ってきてずっといったところ、桜の木の川沿いの風景がおもしろいのかなと思います。それとあと個人的な趣味ですけれども、第2ゲートから福生駅に行く道の、途中に三叉路がありまして、右へ曲がりながらカーブしていく、下がっていく道があるのですね。その景観がおもしろいなと、カーブして、しかも下がっていて、しかも建物がなにか妙に雰囲気があるなというところがありまして、なんかちょっとしゃれた雰囲気の町並みになるようなところで、私はいつもそういうふうと思っています。

渡辺（職員）

渡辺と申します。同じく都市計画課で、今は建築担当で仕事をしております。

好きなところは、福生はなかなかいいところがたくさんあるので好きなのですが、やはり何とんでも開放的なところですね。それは何かというと、横田基地の開放感、それから多摩川の開放感、開放感はこちらかということ、さっき山崎が言いましたように、河岸段丘に沿ってのスカイライン、あの

形が好きですね。それから縦のラインでは、福生の駅から下りてきて、マルミのところから斜めに入っていく道がありますね。団子屋さんの成木屋さんのあるところ、あそこの雰囲気が好きです。それから16号の町並みも好きです。それが16号へ福生とか牛浜からそういうふうな、さっき言いましたけれども、成木屋さんのああいうふうなものがあればいいなと、縦の道ですね。そういう道があればいいなと思うのですけれども、なかなかまだ見つけるには至っておりません。それからもう一つ付け加えたら、拝島の駅のところの玉川上水、さっき皆さんがご覧になった、この表紙に出ている、日光橋公園のあの雰囲気は好きなものの一つです。よろしく願いいたします。

Cさん

福生駅と牛浜駅の間ぐらいに住んでおりますCと申します。

東福保育園の近くなのですけれども、好きな場所は、皆さんがおっしゃったように多摩川沿い、あと仕事で東福保育園に行きますので、その前に栗林があるのですけれども、原ヶ谷戸緑地、あの辺では外人森と呼んでいるのですが、そこで子供たちがいろいろ散策をしているのですけれども、園庭が狭いものですから、その緑が、毎日見ているのもとても好きです。きょうは初めてなので何もわかりませんが、よろしく願いいたします。

Dさん

私、福生病院の近くに住んでおりますDです。私は犬の散歩でよく歩き回るので、かに坂の方の町内ですので、神明社のところからずっと下りまして、かに坂の方からずっと遊歩道というのでしょうかね、あの辺がとても好きで、よく散歩します。

たまたま仕事が、老人クラブの方の仕事をしております関係で、年に4～5回中央公園の自由広場を利用させていただいて、いろいろな催し物に、スポーツ大会なんかするので、あの辺の景色も本当にいいないつも思っているのです。ただ行政側の手入れがよく行き届いているのでしょうか、芝生もきれいに刈られていますし、それから木の手入れなんかもできているので、あそこでゲートボールですとかグラウンドゴルフですとかベタンクですとかの大会をしますときに、本当に目が休まりますね。それで町会の方の行事として春と秋に必ずスポーツ大会のバーベキュー的なものをやるのですけれども、かまどのところから下に広がっているあの景色も好きなのです。

きょうはいろいろな面でお勉強になるかなと思ってこのイベントの方に参加させていただきました。どうぞよろしく願いいたします。

司会

先ほど申し遅れまして、本日の司会進行を仰せつかっております、市役所秘書広報課の福島でございます。どうぞよろしく願いいたします。

私は、以前飲み屋さんがいっぱいあったところが好きなのですが（笑い）、最近は中央図書館、文化の森と呼んでいるのですが、あの辺の雰囲気というのはすてきだなと常日ごろから思っております。

荒井

先程からお話させていただいておりますけれども、都市計画課長の荒井と申します。よろしく願います。

青梅の方に住まわせていただいているわけですが、私はどういうわけか建設の関係で都市計画関係が長くて、いろいろ聞かれるわけなのですが、私の方がいいところと言いますといろいろ語弊があるかと思うのですが、平成9年ですかね、朝日新聞で玉川上水を、ちょっとはっきりしないのですが、8月20日から9月20日にかけて玉川上水を連載されたのですね。そんなことがありまして、その当時この委員会でこんなふうなPR、その部分だけ焼いて配ったことがあるのですが、私は唯一玉川上水の、玉川の基本軸になっているような、そういう部分が全体的に、個人的にはすごく好き思っております。今後ともひとつよろしく願います。

Eさん

羽村市のEと申しますけれども、まちづくりフォーラムということで、みんなで話し合うという機会が福生にあるということで参加させてもらって、前回7月に参加させてもらって、今回も来たのですが、好きなのところというのは、やはりさっきお話が出た河岸段丘がありまして、やはり羽村から福生にかけてずっと河岸段丘があるのですが、そういったものを残していきたいなと思います。それと個人的には先ほどおっしゃった市の図書館がありますね。あそこの雰囲気は好きです。

鳥越

私も市の仕事をさせていただいております。今は公園緑化係というところです。

都市景観につきましてから福生はとても好きです。それぞれ味がありますし、なんか東京で変な異国情緒があったり、それから解放感もったり緑もあったりということで、千差万別のまとまりのないまちだなという感じがしますけれども、それがあつていいと思います。

子供のころから比べますとかなり変わってきましたから、少しずつよくなっているのか悪くなっているのか自分でもよくわかりませんが、仕事をする中では、公園が70公園もありますし、少しでもいい、やさしいまちというか、目にやさしいというか、住んで気持ちがいい、そういうようなことで仕事をしております。

村山

残るのは渡邊さんと私なのですが、渡邊さんからは個人の情報でいただいてなかったので、お

名前だけですので、渡邊さん、自己紹介をお願いします。

渡邊

南田園2丁目に住んでおります渡邊と申します。

仕事は都市計画のコンサルタントをやっているのですが、ほとんど夜は福生にいないで、余りよろしくないということで、去年ぐらまで、いつごろだったですかね、基本構想の審議会のメンバーを公募しているというので、たまには地元で役立たないかというのでそれにエントリーしまして、それから福生市との本当に住民としての付き合いが始まりました。

先ほどから河岸段丘のお話が出ていますけれども、私は崖下に住んでおまして、一番幸せなのは、お休みの朝に鳥の声で目が覚めるというのは非常に幸せだなと思っています。

秋になると枯れ葉のシーズンで、道路一面葉っぱになるのですが、住民としては一生懸命掃いてきれいにしたいと思うのですが、うちの女房なんかは「どうせ市役所の車がきてがっとはいてくれるからいいよ」と言うのですが、「おまえ、そうじゃないだろう」と言って、まず家庭の中から参加型のまちづくりをしなければいけないということが実は一番正直なところでございます。

それから、今ちょっと申しました都市景観ということ、やはり見る方は結構多いのですが、例えば鳥の声だとか、風で木がさわさわというその音というのですが、サウンドスケープと専門では言うのですが、そういった都市の中の音をどうつくっていくか、どうそれをみんなで共有していくかというのもおもしろいことだと思うので、そういったことにも気配りして、新しいまちができればなというふうに思っております。

村山

景観というと視覚的なことばかりが中心になりがちなのですが、今の御意見、非常に重要だと私は思います。玉川上水というのはとてもきれいなのですが、水が静かに流れ過ぎていてちょっとつまらないなと。けさちょっと家の前の道路を掃除してしましたら、水がさらさら流れる音がするわけですね。あれどこかなと思ったら、下水の水が流れる音が聞こえていました。できれば玉川上水に少し段をつくって、ジャーっと流れるようなところがあるととてもいいのではないかなと、そういう小さな滝でも水が生き返る、そこで空気が混ざって水が生き返る、浄化されるとかという話も聞きましたけれども、そんなふうなことをちょっと今朝感じたところなのです。

私は映画のカメラマンという職業を経て、世界中飛び回りたいというのが私の夢だったので、本当にそんな夢が実現いたしまして、取材をした国が60カ国ぐらになりまして、今ごろいただいている写真は、2000年だったんですね。北京で中国最初の科学技術の大きな国際映画祭がありました。その審査員を仰せつかりまして中国に

行ったのですけれども、そのときに撮りました。

今も映像等にかかわる仕事をさせていただいてありますが、取り上げるテーマというのは千差万別でございます、そのうちの一つにやはり時代を反映して環境というのがあります、そんなこともありまして市の方からお声をかけていただいたわけです。

さて、変わる福生なのですけれども、1年間の行政でどのくらい、何の変化もないのではないかなど、大変失礼ながらと思って、福生を改めて見直してみたのですが、なにか都市景観ですから、視覚だけにとらわれないようにしていただきたいと思いますが、写真を使ってまた改めて福生市内を散歩してみたいというふうに思いますが、皆さんがどんなふう感じられるかというのを大事にしていきたいと思います。

これは福生の、よくラジオの渋滞情報がありますね。拝島の駅の16号のところをいつも混んでいる。それから16号と五日市街道の合流点、その辺のところも渋滞がひどいということですが、本多さん、渡邊さん、また何か御専門として感じられるところがありましたらおっしゃっていただけたらと思います。

拝島の駅の構内というのは相当広いないつも私は思っているんですね。五日市線の熊川の駅がカーブに差しかったところにあるものだから、複線化する上で非常に限界があるということで、五日市線が伸びてあきる野市の方に行くわけですが、あきる野市の方からぜひ複線化してほしいといった強い要望があるそうです。複線化されればもちろん地元の福生も便利になるわけですが、なんかちょっと私が個人的に感じたアイディアは、拝島駅の一番北側ですね。つまり16号と立体交差になっているところ、あの辺を開発したらどうかと、立派な拝島駅の正面玄関をここへつくったらどうかと。拝島駅の東口も西口ももう狭くて、狭くてどうにもならない状況で、そんなことを感じているのですが、もし何かどうぞ、一通り話が進んだらなどといわずに、感じられることがありましたら何でもおっしゃってください。

渡邊

拝島駅というのは福生市と隣の昭島市とちょうどまたがっているところなので、なかなか難しいみたいですね。

村山

そのようですね。この写真の上でいえば、境界はこの辺なのではないですか。そんな感じがします。これが福生の典型的な、大体2階建ての家が一面に並び武蔵野町会で、これは16号のすぐわきに建っております大きなマンションの屋上から撮影したものです。この住宅が作り出す景観というのは、皆さんごらんになってどんな風に感じられますか。もっとたくさん緑があってもいいのではないかなと思うのですが、つまり第1種住居専用地域という、用途地域でいえば最も住みよい環境を醸成する地

区ということなのだそうです。しかしなんかそれにしても、ここに住んでおられる方がいらしたら申しわけないのですが、もっと緑豊かなスペースを持った住環境というのはつくれないのかなと思うのですけれども、少しごちゃごちゃしているような私は印象を受けるのですけれども、どうでしょう。

それだけならまだよしいのですけれども、あとでちょっと問題がありますので、それはこのところを見ていただきたいのですが、この道路ですね、この細い道路。これが16号のバイパス的な役割をしていますが、静かな住環境の住宅街にいつも車が、特に土曜日、日曜日になると、この武蔵野橋が混むものですから、それを知っている人たちがみんなこっちへ入ってくる。こういう問題をどう解決したらいいかというのは、行政の皆さんもそうでしょうが、一市民レベルではどうにもならないことではないかなという、警察の方なんかには訴えたって、つまり最高の住環境をつくらなければいけないのに、騒音と排気ガスをまき散らす。私も車を運転しますから、そんなに人のことを言えないのですけれども、やはり何か規制というふうなものをうまく活用しないとまずいのではないかなというふうに思うのですけれども、どうでしょう。もういきなり肝心なことを言い出しているのですけれども。

渡邊

国道16号は拡幅工事という道路の幅を広げる工事がちょうどここで始まったところなのです。多摩工業高校の前あたりからずっと片側1車線になっているんですね。あれが今度片側3車線ぐらいになるのかな。なんかかなり広がっていい道になるらしいのですけれども、そういう意味では本来16号を走らなければいけない車がこっちに入ってきたというのが、そこが問題なのですけれども、今度16号がきちんと整備されて、道をしかるべく通ってくると少し中の方もすいてくれるのかなという気はしますね。

村山

それから、この建物、申し訳ありませんが、もちろん目立つためのお仕事ですから、お店も十分目立つようになっているのですけれども、こういう色使いとか、そういうふうなことについては、もうちょっと何かしなければいけないのではないかな、景観の統一という日本はとにかく自由ですから、規制されるようなことを言うと反発されるかもしれませんが、話し合いをして色使いというものを、外に対して色使いというものは、なにかちょっと標準がないといけないのではないかなという気がするのですけれども、これは私が見て思うだけですけれども、いかがでしょうか。

ここで、きょう配られました印刷物を参考に、5カ所紹介させていただきます。「福生景観・彫刻マップ」その表紙に使われているのが日光橋公園からみずくらいど公園を結ぶ玉川上水沿いの散歩道なのですけれども、これは私が一番好きな道です。これが日光橋公園です。こんなふうに、これがその散

歩道なのですけれども、僕はいつも通勤のときも天気がいいときは使っているのですが、木の枝が枯れて落ちていたりしているわけです。実はこれは渡辺さんのデザインしていた、計画なさったのですけれども、お話を伺いたいなと思って、ここは土なのです。とてももちろん歩き心地はいいのですけれども、周りに落ちている材木をチップにして、ここにチップを敷いたらどんなことになるのかなというふうに。雨が降った翌日はぬかるんだりして、歩くのに困ることがあります。

渡辺（職員）

これは土のように見えるのですけれども、これは土壌改良材といいまして特殊な薬液を混ぜて、現場で20センチぐらい攪拌をして、それで転圧をしたという形になっています。それでこの全部ではなくて、それと並行した八高線側についてはチップの舗装にしております。チップの舗装は流れ出してしまうという危険性がありますので、玉川上水は飲み水ですよ。そうやってくると、東京都との話し合いの中では、明確な土どめでもつけない限りチップを入れることは今の状況ではできないということですね。もし荒れてきたということになるならば、10年程度経っていますから、もう1回土壌改良材を混ぜてつくった土を上に乗せるような形で、上乘せしていくような形で整備するしかないかなと思います。ただチップでやっていくのはいいと思います。

ここは単なる雑木林ですね。雑木林とあるのは里のものですね。雑木林は人間の力がない限り育たないものなのです。原生林ではなく雑木林です。雑木林というのは適当に育てたらそれをもとから切って、薪に使ってというサイクルというか、そうするとある年代で切った木はまたそこから出てくるのです。ですから倒してしまうわけではないのです。それは人と自然との接点でうまくこういうものを利用してということで考えると、ある一定の時期に切るとまた同じものが生えてくる、それをうまく具合にやっていくと生活の中で十分利用できるという、昔の人が考えたのです。それが萌芽更新と言われているものです。

村山

僕は利用して思うのですが、ここをお掃除をする、協力を呼びかけるような日というのがあってもいいのではないかなと思うのです。というのは、使うだけというので、中でそれこそ犬の散歩でふんを置きっぱなしにしてしまうと、なんかちょっと本当に有料にでもしたいなという、した方がいいのではないかなとも思ったりするのですが。

渡辺（職員）

有料化するのはいいのですけれども、行政ではなるべく地域の方に利用していただくところを強く出した方がという気もするのです。小さい公園については町会の方に花を植えていただくとかして、その分お祭にも使っていただくところがありますので、もう一歩進めば多分、おっ

しまったような形になっていくのではと思います。

村山

ちなみに、鍋二町会の組長懇親会というのがありまして、そのときはここを使わせていただいています。そのかわり終わりましたらみなでお掃除をして、使い始めたとき以上にきれいにしてお返すということ。

さて、景観という面では相当問題になりそうな部分が出てきました。この踏み切りの色使いとかというのはちょっと考えていただいた方がいいのではないかなと思います。

それからまさにこの騒音ですね。もうそばにいたら耐えられないと思うような、近所で大きな音で警報機が鳴ります。西武線の踏み切りを調べてみたら、音の質、それから回数が全然違います。西武線の方がやさしくできている。ああいうのはやはりJRの人に聞いていただいて、そういういいところはどんどん真似をしていただかないといけないのではないかなと思います。

それから、これは玉川上水のところにかかっている青梅線のガードですけれども、私が思いますには、横田基地の騒音よりもこの周辺のガードの出す音の方が大きいのではないかなと思って騒音の調査をしました。110デシベルでした。しかしこの調査したのは1年前ですが、そのときは、少し専門的になるかもしれませんが、103系という古いタイプの電車ががらがら走っていたときです。ところがJRはことしの3月いっぱい古いタイプの電車を全部廃止しました。それで今は200系という電車が走っています。これは比較的静かですね。電車の車両の重さが違うそうです。それから経済性が違うそうです。

私、自分の家がこれなものですから、家の周りをきれいにしてもらいたいから言うのではないのですけれども、このボールの多さを皆さん見てください。本当になぜこんなにボールが必要なのか、ミラーはこういうふうになるようにはなっているのですけれども、これを支えているボールはこんな色が必要なのかなと思います。ともかくこれは何とか行政と市民と一緒に、写真の散歩ではなくて、本当に実際に歩いて、このボールがいるのかいないのかというのは、皆さんでこれだけやるだけでも景観というのは大分改善されるのではないかなと思うのですけれども。

これが八高線のガードです。これが将来拡幅されるという計画があるそうですけれども、ここは非常に問題があるかなと思います。

今度は東福生の方にきました。この16号については警察の駐車取り締まりと地元の商店街との非常にいろいろトラブルがあるという話を聞いているのですけれども、私は極端な意見かもしれませんが、ここは全部駐車可能にしてあげた方がいいと思うのですが、どうでしょうか。

渡辺

もともと道路というのは、車の通行の用に供する

とか道路法に書かれていて、要するに道路に車を止めるということは余り許されてなかったのですけれども、最近の傾向として、都心なんかそうなのですけれども、パーキングメーターをつけて車を止められるとか、そういうふうに通道の使い方が大分変わってきているので、今、村山さんがおっしゃったようにもう16号の外側というか、左側の商店街の方は1車線分はもうパーキングにしていましてよとか、それでただ止めてもらうのではなくて、やはりパーキングメーターをつけて、お金を取って、それを何かうまく使うとか、そんな考えというのはあるんですね。

村山

非常にこれが日本の一角かと思うような、そういうふうなお店がたくさんありまして、結構週末は若い人たちを魅きつけて集まってきているようですね。

本多

これ(産業道路)は村山さんにぜひこのところを撮ってほしいというのでお願いしたものです。といいますのは、さっきからお話が出ていますけれども、これも乱暴な言い方をしますと、やはり車の方にウエートが置かれていて、まちということ、そこに住んでいる人間の方ではなくて、そこを通過していく車であつたり、全部その問題だと思つたのです。ポールの問題も。

この場合、ごらんになってわかりますように、もともとはこっちの幅だったのですよ、道が。広がったのを縮めたのですよね。縮めてしまうというのはちょっと乱暴だなと。あの工事のために縮めているのかもしれないのですけれども、やはり歩道をむしろ広げるみたいな、電柱もむしろ、もしか僕なんか車に乗りませんからガンガン言うのですけれども、ちゃんと車道の方に車をつけてもらいたいし、それからあのガードレールだってあの向きね、あれはいろいろ事故の問題があるから力学的にあるのでしょうかけれども、歩いている方は裏道を歩いているみたいになってしまう。

それから、黄色が目立ちますよね。さっきのシャッターもそうですし、それから電車のやつもそうなのだけれども、あれはやはり色彩をするときには一番目立つようにすると、自然の中に余りないもので、目につくようにやっていると。

渡邊

警察の規制標識を見ますとすべて黄色標識ですね。黄色と黒のゼブラとかね。

本多

だからもう絶対に見逃さないよということなのでしょう。ただ僕が思うのは、これはほとんど都市景観という点からいうとんでもない話であつて、もうこれがある限り景観は全部変わりますよ。景観そのものに対するアンチテーゼですから、要するに町並みがどうだろうが、どんなにきれいだろう

が構わず、とにかく注意を引きつけるという、だからこの色というのはほとんど自然の中には珍しい、花でもありますけれども、花の黄色はもう少し違うのです。だからこれは多分、非常に茶色に深い黄色なので、それでそろえてすることによって、本来は紫の濃いのにしたいのしょうけれども、補色ですから、黒に多分して、目に入る、補色によって違ってきますのでね。そういうことで多分だれかが考えたのでしょう。

ただこれは極めて押しつけがましいというか、例えば車のドライバーに対しても、警察行政のなにか、あるいはJRもそうなのですけれども、子供扱いしたやり方だと僕は思います。だからもう少し大人のセンスというのか、そういう視点で見るとこれは使わないのではないかと思います。僕はアメリカに大分行ってはいますが、余り見ないですよ、こういうのは。

渡邊

黄色は警戒色というか、注意を促すのだけれども、だれに対して注意を促しているのかなと、車はまさか柱にぶつかることはないだろうかと、恐らく。

本多

結局ある意味でいうと、景観の中に溶けないように設計がして、アンチテーゼというのは景観の中に溶けないような色なのです。だから景観の中に溶けてしまう、例えば極端な話、あれがグリーンだと後ろのグリーンに溶けてしまう。だから存在を示せない。

だからやはりこの色と、特にゼブラ模様のやつを見ると、皆さんもう慣れてしまっているからあれかもしれないけれども、どきどきしますよね。だから田舎の、ローカルの方に行くとき余りないですね。

アメリカの話で恐縮ですけれども、ずっと走っていて、工事中のところはピンクなのです、これが、きれいな柔らかいピンク。ホワイトローズ。その三角が立っているのですけれども、上に、何と言ったらいいのでしょうか、お姫様みたいなのを付けているのです。旗みたいなのを付けて、かわいいのですよ、すごく。だからこの色に関しては僕はちょっと注文をつけたいな。

渡邊

この色は工事エリア内の色ですから、多分現場監督さん、あるいは警察の指示で黄色くするところまでは、多分そこまでは行政指導してないと思うのです。ですから現場サイドで何にしようとなったときに、黄色というものが使われたのかなと思うのですけれども。

本多

色彩に関しては非常に日本では無頓着で、例えばさっきも言った武蔵野町会のあれを見てもわかるようにみんなばらばらで、ああいうふうになってしまうことが、それぞれがもう少しまちの中の我が家であつたり、色彩的なものにももう少し関心を払っ



てもらいたいなと僕は思いますけれどもね。

渡邊

自分は設計をやっていますが、設計の中でイメージアップという経費をみるところがあるのですけれども、都内なんかにいけますと全部花柄のマークで囲ってしまったりというようなところがひとつありますけれども、黄色は確かに景観の話からすれば、いまいわれたようなものが手法とすればあるのですけれども、ですからこの現場は長いのですけれども、こういうのはやはりきっちりやっておかないといけないうのはあるのではないのでしょうか。

黄色というの、自分は以前防災の方の仕事をしていましたけれども、交通安全の方なのですけれども、あれがもし黄色でなければかなり突っ込みますね。死亡事故は起きると思います。例えば目の前に看板があって突っ込むドライバーの人というのは、錯覚で結構あるので、ある種注意を促すような形、景観の問題と相反する論点としても認識しなければいけない。

最近やはり必ず、おっしゃるとおり赤とかピンクとかブルーなんかは製品として出てきましたので、あれはですから交通安全の、さっき言ったように死亡事故の部分でガードする部分の色と違いますが、どういうふうな形で使うかという手はやはりあると思います。少しずつ現場もやさしくなるかなという感じはあるのではないかなと思います。そういう意識がまず初めに、景観的な部分がなかなか行き届いてないというのは、そういう話はまだしませんからね。どうやってつくるのか、どうやって安全確保しようかと、この2点が大体現場の主流ですので、そういう面では工事の設計に関しては参考にしています。

村山

今度海外取材に行きましたらば、海外の工事現場はどんなふうになっているか、写真を撮ってきたいと思います。

そういうのを一つ取り上げて、本当に何分あっても時間が足りないのですけれども、これは産業道路の南です。正面はガソリンスタンド、わりと景観に配慮した計画道路が進んでいるのかなという感じはあります。

いよいよ核心に触れてまいりました。福生駅の東口の正面です。今ちょっと何か工事をしているようです。それから西口です。電線の地中化が終わりしました西口です。実はここにまた一つ大きな計画が進んでおりまして、今の現状は東口の駅前というのはこんな感じで、1000台駐車できるような駐輪場ということで、便利なのですけれども、ちょっと目にはやさしくないなという感じですね。こうやって見るときれいというか、何というのでしょうか、もう目立ちたがりやがたくさん集まっていて結局どれも目立たないのではないかなというようなガチャガチャなのですね。これも夜になりますとこの電線が全部見えなくなって、ネオンだけが見えてきますので、それなりの雰囲気があるというふうに思うの

ですけれども。

この踏み切りは大変歩きやすくなりましたね。ただ渡った途端に狭い道になりますから。

これ(新西友の完成予想図)はお断りして写真を撮影させてもらいました。このパースの一番左側が福生の駅です。駅の改札口は2階のレベルになっているわけですが、そこからずっと同じ高さでこの歩道が伸びるそうです。ペDESTリアンデッキ、この同じ高さでずっと歩道がつながりますので、非常に便利になるのです。その便利というのは何かというと、上がったたり下りたりしないのはもちろんなのですが、車を気にしないで歩けるということです。

それから、これが柳通りです。柳通りを越えて駐車場までつながる、今は平面の駐車場があって、これも工事が始まりました。

それで市民の皆さんにとって耳寄りなニュースというのは、先ほど見えました1000台止まる駐輪場、あの駐輪場のスペースをこの建物の地下に全部入れるそうです。その駐輪場、それからペDESTリアンデッキ、これは僕は画期的なことではないかと思うのです。デッキによってお客さんが集まるということもあるのでしょうかけれども、私はこれは非常に評価すべき大英断だと考えます。事業主と行政が協力しあった、民活による都市づくりという点で非常に福生において注目すべき事業ではないかというふうに思われます。これがきれいな景観をつくり出すひとつの起爆剤になる可能性があると思います。

聞いた話によりますと、屋上は都の指示によって緑化すると、都市はヒートアイランドということである、温暖化の原因になると言われていますが、そんなもろもろ話題が集中しています。ぜひ皆さんも関心を持ってその推移を見守っていただきたいと思います。

荒井

ちょっとその件について補足させていただきます。先ほどの地下駐輪場の問題でございますけれども、現在、青梅線沿いに1000台の駐輪場がございます。それともう一つ、福生駅東口には第二東口駐車場といいまして、先ほどのロータリーを出た交差点の南側にもう1カ所、福生駅東口第2駐輪場というのがあるのですが、それとあわせて約2000台を地下へ駐輪場として設置します。

現在考えているところの駐輪場の運営といたしましては、いわゆる公設民営というような形でいこうと進めております。そういう形で、先ほど来民生活活用ということで、今、国の方でも大分さわがれている都市再生ということで、そういうような形を、都市再生交通拠点整備事業というのを活用させていただいて、おのおの国、市、それから民間の方のそれぞれが3分の1ずつの負担割合で今回進めているということです。

村山

大変ありがとうございました。

全体の計画の一端だと思いますが、東口の交差点

の空間が広がったと。それからこれはお米屋さん  
のところの交差点ですが、これはちょうどクランク  
になっているものですから、小さいながら交通の難  
所というところだったのですが、スムーズに曲がれ  
る交差点になりました。けさ私はこの写真を撮っ  
てきたのですが、近所の方に聞いたところだと、  
交通は非常に流れがよくなったけれども、その  
分交通量が増えたと、騒音も排気ガスも増えてい  
るかなといいます。将来はこの前の狭い道、これが柳  
通りの方からずっと伸びてきて、50メートルぐら  
いカットされますけれども、それから同じようにこ  
れと交差している、多摩橋の方からきている道路な  
のですけれども、これも30メートルぐらいカット  
されるということで、道は長期的には広がっていく  
方向なのですから、それが本当に正しい選択か  
どうかというのは、一度立ち止まって考える必要も  
あるのではないかなというふうなところがあるの  
です。

それから、これは福生の駅と牛浜の駅を結ぶ、両  
サイドにちょうど同じぐらいの幅の道があるの  
ですが、これは結論から申し上げますと、私はここは車  
は通行止め、通さない方がいいのではないかと、た  
だし近くに家がありますから、そこの方々の御意見を  
しっかりと聞いていただいて、ここは基本的には歩  
行者と自転車だけの道路、こんな細い道をどうして  
車が通らなければいけないのか、いつも歩いていて  
感じています。

むしろその幅をちょっとけずって、線路との堺  
を生け垣にするとかなんとかして、少しでも騒音を  
吸収するような工夫をして、歩きたくするような歩  
道にしていただけはないかと強く私は感じるのだ  
すけれども、いかがでしょうか。

本多

ここはわりあいよく使うのです。ここはちょっと  
直ったような感じがしますが、こんなだった  
のですよ、道が。線路の方からこっちの家の方まで  
非常に歩きづらいいけれども、まあまあ車の通りも少  
なかったのですけれども、牛浜方面に行くにはちょ  
うどよかったのです。

村山

それから、牛浜駅なのですから、確かにこれ  
で支障はないかもわかりませんが、公共的な  
施設というもののデザインをもう根本的に見直し  
た方がいいのではないかなという気がします。その  
象徴は後で述べます。

これはあのときにちょっと説明しましたけれど  
も、看板は電車のお客さん向けのものですから、外  
から見ると看板は裏側になります。

それから、一中の通学路のわきの駐車場、ここは  
今まで一中通りは問題がありました。全面解決では  
ないかもしれませんが、今は拡幅をしている  
と、そのために老木の桜が何本か切られてしまっ  
たということはあるのですが、前よりか危険が大分抑え  
られました。ここをよく見ましたら、その桜をちゃ  
んと生かしているというふうな感じを受けました。

それから、山王橋という、御存知でしょうか。こ  
こも歩車分離で大分安全になりました。そういうこ  
とで、交通の要所なのですから、大部改善され  
ました。

これが私たちの誇るべき福生市の市役所です。質  
実剛健といえればそういうことかもしれませんが、  
ただもっと象徴的なデザインでつくり直すな  
らつくり直した方が、デザインを誇れるような建物  
にしていったら、それは決して贅沢ではないのだ  
す。もうそういう時代は過ぎたのです。

このように今は圏央道につながる道になりまし  
たから、通過交通量が相当多いのではないかと思  
います。そうするとそういう道に歩道があること  
の意味がどれだけあるのかなというふうな疑問も感  
じます。

多摩川は護岸工事というのは確かにしっかりと  
行われているようですが、さっきに坂公園  
の話が出たのですが、これなんか防災上は確かに  
盤石という感じがしますが、景観という面では  
非常に不満足です。

それから、先ほど本多さんもおっしゃいました  
けれども、都市づくり、道路づくりは車の道づく  
りになっていて、歩行者が忘れられてしまっ  
ているのだと感じます。

それに引き換え西口は大変改善されました。た  
だし、16号と共通の問題があります。駐車問題  
ですね。私はここも極端に言えば1車線は駐車を  
全面許可にしていいただけたらダメでしょうか。  
駐車するとどうい問題が出てくるか。

それから、銀座通りは車が1台入るだけの幅を  
通って、あとは歩行者用となったわけですが、  
これもできることならばゆっくり散歩しながら  
ショッピングができるような感じの方がいい  
のではないかなと、ここに車を通す意味がどう  
いうところにあるのかなといつも実は通りなが  
ら感じています。どうでしょうか。電線もた  
くさん気になりますし、それに引き換え西口  
は、前にもお話ししましたが、このきれいな  
景観を一層引き締めている効果があると思  
います。という意味で、私は福生駅のデザ  
インというものも将来はまた考えていかな  
ければならないと思います。

ということで、私の独断と偏見で感じることを  
無茶苦茶に申し上げてしまいましたが、もう  
一度今回のフォーラムの総括編ということで、  
都市景観フォーラムの現状、それから主役  
は、役所の方と同じレベルで市民が主役  
であるとか、こういうことで再確認を  
していただきたいと思います。

それでは、残り20分弱ありますので、写  
真を見ただいた御感想でもいいですし、こ  
れは触れないのではないかと何か御意見  
がありましたら、その辺でも。

Bさん

私、環境課の方がやっています福生環境市民  
会議の方に出ておまして、これと同じよう  
な議論ができています。私はまちづく  
りの方ですので、全く今の

お話、ダブっているところなのです。

この間拜島駅からリサイクルセンターの方へ向かって歩いて、とにかく福生市の半分、熊川寄りの方を歩いたのですけれども、まず最初に拜島駅から歩きまして、緑道をリサイクルセンターの方へ向かって歩いて行って、こういうところだったのかと、本当にあそこは気温が2～3度低いのではないかと思うような感じがするのですね。

私は福東通りの状況ばかり見ている、ここに住んでいる人は大変だろうと思っていたら、あそこを通ったら「いや、これはまた別の意味で別天地だな」ということを非常に感じました。

私がきょうぜひ訴えたかったのは、やはり皆さんと基本的には同じなのですけれども、まちづくりというのは本当に交通、物流、道路によって作り出されて、私たちは本当に買い物に行くのでさえも、例えば御老人の方が手押し車みたいなものを押してスーパーへ買い物に行けるだろうかということを考えただけでも非常に無理だろうと、大体もう歩くのが不愉快でどうしようもないというのがまちであって、ここで昔ながらの駅前商店街を反映させるなんていうのはとても無理だろうというふうに思っています。何とか昔ながらの生活平面、安らかな生活平面を取り戻せないかというふうに思っております。

さいわい、私なんかは田園地区に住んでおりますから、非常に快適な、ほとんど多摩川に沿って遊歩道を利用すれば、3分の2ぐらいはそこを通過してどこへでも行けるといような状況ですから、本当にそういう意味では幸せなのですけれども、しかし一度川を渡るということを考えますと、本当に快適に渡れる道というのは一つもないわけで、物流道路のわきに歩道がついていて、非常に不愉快な排気ガスを吸いながらしか渡れない、多摩橋にしましても、陸橋はもうなおさらのこと本当に大変だと、私たちはもう一遍、昔はこうではなかったのではないかと、牛浜の渡しというのがあったわけなのですけれども、渡し船に乗ってさえももっと気分のいい暮らしをしていたのではないだろうか、それで町内の一番古い階層の人たちというのは、本当に渡し船で生計を立てていたといような方も2所帯ぐらいいらっしゃると思いますね。

そういうことを考えると、やはり本当に昔ながらの生活平面、それも川に沿っていけば自然になだらかな生活平面が広がっているのではないかと、私たちから見れば多摩川はもちろんだけれども、向こう側へ渡って平井川だって、あれに沿ってずっと歩いていけば段差のない平面を上がっていきけるのではないかと、そういうなんか生活平面というのをもう一遍考え直そうではないかと、私はちょっと強引だと思うのですけれども、行く先々でこういう話をしているのですけれども、ぜひひとつ、例えば青梅には簡保の宿ですか、あそこに向かって遊歩道橋みたいなものが二つありますね。本当に素晴らしいと、あんなに素晴らしくはいかないかもしれないけれども、田園地区、多分どこでと言ったら私たちの南田園三丁目当たりだと思うのですけれども、やはり遊歩道

橋というか、兩岸渡して、ついでに平井川の兩岸も渡すといような遊歩道橋ができれば、ずっと続いていった生活平面というのが再生できると、それは遊歩道でもあり同時に、やはり買い物への道でもあるし、お役所やいろいろなところへ、病院やそういうところへ共通に利用できるものでもあると思うのですね。

今まで、大きなまちの構想というのは全部国が都かなにかがやっていたけれども、やはりこちら側から50年先、100年先にはこういう景観にするのだよという、ぜひこういう景色のまちづくりをしようといような、そういう地域の何か夢みたいなのを私たちの側から描いていくと、そういう意味でのアイデンティティだろうし、それをみんなで支えていくコミュニティの合意みたいなものが必要なのだろうと、それにはわかりやすく、みんながこうしたいと、こういう景色にしたいと、こうなったらどんなに素晴らしいかと、生活がどんなに便利かと、そういう絵を書くことはやはり今大事なのではないだろうか、そういうものをぜひ今の時期作り出して、身の回りで助け合っていく、物も流れていく社会をつくるためにはそういう生活平面の再生というのをぜひ御一緒に考えていきたいと、それには川沿いの平面というのをもう一遍思い出せないかと、それを生かすような都市計画、ランドデザインを御一緒に考えていきたいものだというふうに思っております。

村山

どうもありがとうございました。Aさん、いかがですか。

Aさん

今のものを見せてもらって痛感というか、これはいけないというのはやはり車ですね。一番の人間に対する害毒というか、極端な言い方。

もっとこれからますます高齢化して、車に乗れない、あるいは今乗れても乗れなくなる人もふえてくると思うのです。そういう人が、今の話ではないけれども、市内を自由に動き回れるようにするためには、やはり公共交通というものをもっと充実して、いわゆる自家用車を減らす方向、通過交通はこれはちょっとまた別に考えなければいけないかもけれども。

例えばうちのところから歩いて1000歩足らずのスーパーまで車で行くわけですね。それは自転車でも行けるし、先ほどどなたかお年寄りの手押し車、そういうのでも行けるような、そういう環境はやはり必要だと。

それにはやはりいろいろなものが絡んでくるわけですね。さっきの電柱の問題も絡んでくるわけです。通りにくい。当然歩道がなければ危険ということもあるけれども、その歩道だって平らでなくては、段差をなくすために所々斜めになっているのですね。そういったところもやはり景観として、横から見るとこんなになっていますね。そういったこともやはり考えなければいけないというふうに感じま

した。

村山

羽村からお越しのEさんでしたね。本当に隣の市の方まで関心を持っていただいてありがたいなと思うのですけれども、いかがですか。御感想は。

Eさん

今の写真を見せていただいて思うのはやはり車の問題なのですね。東口に西友ができるということで、あるいは相当身近な問題だと思うのですけれども、それで商業を活性化したいと駐車場をつくって、それはそれでいいと思うのですが、それで大きいビルをつくります。それはそれでいいと思うのです。ただ、それで車がくるわけですね。それは集客力、あきる野や羽村や青梅とか、そうするとやはりどうしても車両が多くなって、商業的な面で活性化するのはいいけれども、住宅街、私たちが住んでいる住居の人はどうなるかとすごく心配で、これは羽村もそうですし、福生もそうですけれども、それは圏央道もそうです。圏央道ができると便利になるけれども通過車両が増える。そのときにどう住環境を守るかということで、特に拡幅ができるところはいいけれども、そうではないところは多いじゃないですか。さっきの16号の抜け道とか、そういうところの住宅街をどう守るかということを具体的に、早急にみんなで参加しながら考えていけばと思います。

一つは、例えばこれはアイデアですけれども、住宅街には車両を規制するか、もしくは入ったとしても低速度、20km/hを守る。極端な話ですけれども、そういうのをそれこそ行政と住んでいる市民と警察と、皆さんと一緒に話して行って、安全なまちをつくっていくことができればと思います。

村山

住居専用地域は、イギリスのラドバーン方式というのでは、住宅街を通る道路を通過する構造にしないのです。つまり真ん中で立ち切ってしまうのです。そうすると住宅街に住んでいる人以外は入れませんから、そうすると余計な車は入ってこない。こういう方式を考えた都市の名前をとってラドバーン方式と言っている方式があります。

もしかしたら道は拡幅するというばかり考えるのではなくて、縮幅というか、幅を縮めるとか、車の道路を廃止するとかというのも、そういうことも含めて将来のひとつの検討すべきアイデアなのではないかと思います。

本多

今のに賛成です。最初にEさんがおっしゃったのに僕は基本的にというか、全面的に賛成で、やはり諸悪の根源はと言ったら言い過ぎかもしれないですけれども、これは今の時代に逆行するかもしれないけれども、みんな車ですよ。車の問題はかなりシビアに考えないと、例えば美しさとかやさしさとかいろいろ言葉が出ています。市の憲章でもたくさん出ています、そういう言葉は。みんな自然が

いいとか文化だとか言っているけれども、これは全部なくしていますよね。

僕はだから歩く文化みたいなものがあって、よく狩猟民族と、それから農耕民族とかいうけれども、そうではなくて採取民族みたいなものが出て、拾って歩くような、そういうことで言うと拾って歩くのは散歩道があって、あそこの家の庭木がいいとか、この道楽しいとか、僕らは加美平だったのですけれども、土の道がどこもないですよ。1カ所だけ。そこは近道なのです。僕らは近道、近道といって、あそこは多分私道だと思うのですけれども、ところがおもしろいのは、僕はこれで絵本を書いたのですが、あそこは通学路ではないのです。だから通ってはいけないのです、子供たちはみんな。ところがうちの方まであそこを通過して学校、一小、学校から通ってくるわけですね。あそこの通過時間がすごく長いのです、子供たちは。子供はいつもいるのです。例えば生け垣があって、そこでクモを眺めて、20分、30分ですよ。水たまりをパチャパチャやって、それでまた20分、30分、だから普通の通学路だと15分、10分で帰ってきてしまうところが小一時間かかってしまう。それは何だろうと思うと、楽しいのですよ。それはまさに生活であり、我々が生きている、あるいは生かされている生活の場なのです。

僕にも一つ、歩く文化というのも提案したいなと思っているのですが、そうするとさっきの村山さんの家の方の横道に車が入ってしまうところも、いっぱいボールがあるのも、歩く文化を、一つだけボールを立てて「ここから車はだめよ」と言ってしまったら、中にはほとんど立っているやつはみんな車のためになくなってしまいますよね。

そうすれば、色のそういう、今問題になっているのはかなり片づくと思うのです。しかしそれは非常に一面的な考え方で、乱暴な考え方なので、車というものをどこかで生かすところをつくらなければいけない。そうでないと今度は産業そのものが成り立たないということがあるので、通過だけではなくてあると思いますので、そこをどのようにするか、都市景観という立場からいえば、かなりもう強めに歩く文化ということを提案して、それを実現するのが、緑もふえましょうし、自然という形で出てくるでしょうし、犬の散歩も楽になるでしょうし、子供たちが多少長い時間かかってもいいじゃないですか、汚して帰ってもいいじゃないですか。もう少しコミュニケーションがとれるような、早く帰りなさい、なんて言うだけでもやはりそれもコミュニケーションなのです。だから歩くというのも一つあるのではないかなと思います。

その例としまして、今思い出したのですが、オランダは自転車をととても進めています。私は実は半年前ばかり前に福生を出まして、今は昭島にいますが、昭島には散歩道が結構あちこちあります。そこは車が入りません。もしついでがありましたら来てみてください。駅のすぐもう、緑街道のすぐ下のところに、幅がどれぐらいかな。2~3メートルぐらいの道がありまして、本当に横丁なのです。自転

車と人間は歩けるのです。何の自然があるわけではないのです。よその家の庭なのですけれども、見たりして、裏庭だったり表庭だったり、すごくいいのですよ。だからもう少し意図的に福生の中に歩き回れる、散歩道というほどのものでなくてもいいのだけれども、人の家の庭の花を見て楽しんで歩き回れる、ぶらつける、そういうものができるとう商業活性にもなるのではないかと思いますね。

無理に車で集めて、駐車場がないとだめだよという発想そのものが非常に貧しくて、時代遅れのような気がしますけれども、まとめるところはまとめてしまって、車は車で。それでタウンの中、まちの中はみんな歩くという感じになったらすごくすてきな光景になるでしょうね。

村山

福生はそれにふさわしい狭さというので、それで公共交通の電車はあるわけですし、今、ここにこういうのを出しましたけれども、これらの点を結ぶ道路がどうなっているかということで調べてみると、みずくらいど公園から日光橋に向けて、今までは道路が誇らしげにできていましたけれども、それ以外のところは本当に人を中心に道路ができてきたということ。

すみません。もう役所の方をこき下ろすようなことばかり取り上げてしまいましたけれども、もう時間が過ぎてしまいました。

それでは、最後にどなたかいらっしゃいましたらどうぞ。

Bさん

私はとにかく今の村山さんの話でも五つも駅があるのだよという話があって、そういうことを考えると、自転車をひとつの新交通システムと考えて、共用自転車、乗り捨てられると、駅から駅へ、あるいはどこか決められたところで乗り終える、もちろんただというわけにはいかないでしょうが、そういう交通システムというのは考えられないのだろうか、車の共用の問題というのもあるだろうし、何かとにかく、このままの車の状態ではもう力関係で、とても人間は非常に多くのものを失っているのに気がついていない状況ですね。車社会のためにこうなっているというふうなことを。

司会

大変ありがとうございました。まだまだ話がつきないようですけれども、時間が過ぎてまいりました。

今回、都市景観ということで、それをひとつの切り口としてまちづくりを考えてきましたけれども、人間の社会はいろいろなものにかかっていますので、今話が出ました環境の方にも影響してきます。いろいろな切り口からやっていっていただいて、いろいろなことをこれからは市民の皆様方が積極的に自己責任でもって自己決定していく時代になりましたので、例えば車の問題につきましても、乗るのは市民でありますので、市外の方もいらっしゃいますが、自らがいろいろと考えていかなければなら

ないと思います。

また、オランダの自転車の話、それから共用自転車の御提案等がありました。また、さきほどの本多先生から歩くという御提案、他にもいろいろなことがありましたが、今後も施策化のできるところから行っていきたいと思いますので、そのときにはぜひ皆様の御参加をお願いしましていろいろなアイデアをいただきたいと思います。

それでは、長時間にわたりましたけれども、どうもありがとうございました。

- 終了 -